

第三話 日直の号令セックス& 担任と公開セックス



18禁BLゲーの世界に
転移しました!?

～登場人物全員イケメンで
俺の事を犯してきます～

キャラクター紹介



うつろぎ ゆい

虚木 唯

主人公。突然自分がやっていた
BLゲームの世界に転移した。
「皆イケメンだしラッキー☆」と思ってる。
沢山の人に犯されたい願望アリ。



同級生

同じクラスの背の高いイケメン
主人公のお尻にローターを挿れて
操作する♡（二話参照）



担任の先生

生徒たちの前で突然
主人公と公開セックス!?!♡



日直（眼鏡くん）

日直はなぜか号令で
俺に挿入する係で…♡
日直は一日セックス当番!?!♡

*日直の号令セックス♡

教室に戻ってすぐにローターが俺の尻の中で震えはじめる。

ブブブブブブッ♡

「っ…♡んっ…♡」

尻の奥でローターが熱を持ったように感じた。さっきまでただの固い異物だったのに、今は俺の穴を性器に変えるように気持ちよさだけ与えてくる。

「ッ♡ふっ…♡」

長身イケメンがこちらをじっと見つめている。その目がとてもいやらしい。彼はポケットに手を突っ

込んでいて、ポケットの中で俺にねじ込んだローターを操作しているようだった。

“ガ マ ン”

イケメンの口がパクパクと動いて、俺に「我慢しろ」と伝えてくる。つまり声を出すなと言っているのだろう。

(ッ～～無理♡声、漏れちゃう…♡♡すごいこっち見てるし♡)

ローターの音はとても小さいけれど、隣や前後の席のヤツには聞こえてしまっているだろう。隣の男子生徒がチラチラとこちらを見た。

その時、担任が教室に入ってきた。

「はい。朝礼始めるぞ～。お前ら、席つけ～。
日直は早く虚木の所に行けよ～」

担任の声と共に、日直が俺の席の横に立った。彼はおもむろにズボンとパンツを下ろすと、俺が席から立つのを待っている。チラリと横を見れば、彼のむき出しのチンポが、俺の顔のすぐ近くにあった。むわっとした匂いが俺の鼻孔をくすぐる。

彼のチンポは既に緩く勃起しており、こちらを見下ろす彼の目は眼鏡越しに期待でらんらんとしているのが見えた。俺はローターで感じながら、眼鏡君の視線にドキドキした。

(今日の日直は、真面目そうなヤツだな。眼鏡かけて澄ました顔してるけど、チンポもう勃起してんじやん♡)

「日直、号令」

「起立〜っ」

日直の眼鏡君が、声をあげる。

俺が立つと、眼鏡君が俺のズボンを膝下までズラした。彼は俺の尻に速やかにチンポをねじ込んで、そこにローターがある事に気づいて、少しビクッとしたが、気にせずチンポをグリグリ♡と挿入した。

「んあっ♡」

眼鏡君は逃げそうになる俺の腰をグイッ♡と掴むと、俺を後ろから抱きしめた。グッと腰を強く打ち付けられて、パンッ♡と肌が当たる音がした。

ローターが更に奥深くにねじ込まれて、眼鏡君のチンポが俺の中に差し込まれていく。その感覚に俺

はゾクゾクした。ローターが振動でブブブッと動く
せいで、ビリビリと体が痺れるような快感が襲う。

「ッ♡♡♡んん♡♡♡や♡♡♡ふ♡♡♡ん♡♡♡」

「っ、礼〜っ」

眼鏡君が気持ちよさで顔を少し歪めながら、号令
をかけた。

俺は礼をなんとかしようとするが、頭を下げる
と、お尻を突き出すポーズになってしまい、余計に
チンポが深く刺さってしまう。

グニグニグニグニ♡

ブブブブブブ♡♡

「ん♡♡♡あ♡♡♡ん♡♡♡ふ♡♡♡は♡♡♡お♡♡♡お♡♡♡♡♡♡」

「く♡♡♡…！♡♡」

俺が無意識にお尻からチンポを抜こうとすると、眼鏡君はそれに気づいて、俺の腰を強く掴んだ。

パチンッ♡

「んあぁっ♡くっ♡」

「っ、我慢して下さいよ♡ただの挨拶でしょう？♡」

「んっ♡」

「はぁっ♡っ、着席〜っ」

眼鏡君の声と共に、俺は眼鏡君と一緒に椅子に座った。チンポはお尻に刺さったままなので、重力で更にチンポがググッ！と深く刺さった。

グリグリグリッ♡ズルンッ！♡